

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(1階フロア)

事業所番号	2799200072		
法人名	株式会社 美咲		
事業所名	グループホームみさき中茶屋		
所在地	大阪市鶴見区中茶屋1-2-12		
自己評価作成日	平成27年9月20日	評価結果市町村受理日	平成28年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成27年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

もうじきみさき中茶屋がオープンして2年を迎えようとしております。今後も地域に根ざした施設の運営に取り組んでいきたいと思っており、季節に応じたレクリエーション、行事や外出の機会を設けることでご入居者様に季節感を味わって頂きたいと考え、サービスの提供を心がけていきたいと思っております。ご入居者様及びご家族様のご要望やご希望を出来る限りサービスの中に取り組みでいけるようこれからも職員一同誠心誠意信頼関係がこれまで以上に築いていけるよう心がけてまいります。又、それに伴い、各職員が生き活きと働けるように職員の悩みや困っている事を逐一伺えるような配慮・環境づくりを心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体の(株)美咲は、医療法人小池外科グループに所属し、「人」を中心とした快適で安全な高齢者介護を目指した施設を大阪をはじめとして、兵庫・京都・和歌山・神奈川等に全国展開している。当事業所は、その内の一つで平成25年11月に設立した。設立から約2年になる。職員の年齢は19才から70才と幅は広いが、平均年齢は約40才と比較的若くて職場の雰囲気華やかである。「事業所は、私たちの要望を真剣に受け止めてくれるし、聴いてくれる」「利用者として話するのが色々教えて貰えるし、毎日が楽しい」と職員の一人は言う。事業所は医療法人グループに所属し、職員に看護師がいてオンコール体制にあり、健康面の安心も担保されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に掲示し、さらに職員が出勤時に確認する申し送りノートにも挟んでいることで日常的に理念を踏まえて実践を行っている。	「地域とのふれあいが出来るように支援します。……等々」のように事業所独自の理念をつくり、事務所内に掲示したり、閲覧書類の最初のページに挟み込むなどしながら、その理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所や近くの公園や買い物へ散歩をし、ご近所の方と挨拶をかわし、地域への催しものには参加している。	事業所として自治会に加入するだけでなく、盆踊り他、地域の行事に参加したり散歩や買い物時には近隣の方々と挨拶を交わすなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は実施できていないが、今後は地域に向けて、講習会等を開催していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常での取り組み(行事や勉強会)等を報告し、運営に関する意見交換を行うことでサービスに取り入れている。	利用者、利用者家族、自治会長、地域包括支援センター職員、事業所職員等で構成、隔月で開催されている。会議では事業所からの報告の他、参加者から転倒予防対策等についての質問や意見、要望を受け双方向で行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外はこれといった取り組みが出来ていない。	区役所の担当者とは、電話等で折りにふれケアサービスの取り組みについて指導を頂いている。また、介護保険改訂時など、ことある毎に役場へ出向いて行って相談をしながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から拘束ゼロのケアを実践しており、また、月一回の会議等で自覚の無い拘束ないかを話し合いの場として設けている。	全ての職員は、身体拘束をする事によって与える身体的精神的苦痛を理解し、内部研修会を行いながら拘束のないケアの実践に努めている。しかし、玄関出入り口及び各フロアの出入り口は安全のためナンバーロックされている。	玄関出入り口及び各フロア出入り口は、見守り出来る可能な範囲で解錠して、少しでも利用者の自由な暮らしを支援するようにして欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に職員の言動等に注意し、会議や研修等で理解を深め、今後活かして行ける様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修にて機会を設け、理解を深めている。今後も必要に応じて検討していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約内容についての時間を取り、わかりやすく説明し、理解して頂けるまで説明を行うことに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に入居者様にお声をかけ、要望等がないか伺う姿勢を心がけており、家族様に対しても面会時には近況報告及び要望等を伺うように取り組んでいる。	利用者や家族等とは、日頃の会話や様子の中から、また、運営推進会議の中から、食事に関すること、通院に関すること、行事に関すること等意見・要望等を聞き出し運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や研修等で意見を聞く機会を設けている。	管理者は、毎月の会議の他、適宜行なっている個人面談等で運営に関する意見、利用者との対応の仕方、業務の方法など提案する機会を設け、運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内研修にてランクアップ制度や研修を行い、スキルアップや賃金アップに挑戦できる取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会を行っているが、法人外の研修の受講機会を増やしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流に関しては現在できなく、今後は積極的に参加していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と出来るだけ関わりを持ち、不安や不満を聴取し、出来る限り要望に沿った取り組みを実施し、家族様への連絡・報告を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	逐一、入居者様の状況報告を行うとともに不安や要望も伺うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に見学に来られた際に互いに納得して頂けるように説明し、ご本人と家族様より情報を収集しサービスへつなげていくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活という基本をもとに互いが一緒に生活をしているという関係性を築くために取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のニーズを中心として、家族様の意向に沿えるように取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族様に馴染み場所の写真をお借りしたり、その場所へ家族様と一緒にいかれたりしている。	利用者本人が今まで関わってきた地域社会との関係を継続して行くために、墓参りや住んでいた家へ一時帰宅するなど、家族の協力も得ながら支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が個々の性格等を配慮し、間に入り、かわりが持てる様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も意見・相談を受けた場合は迅速かつ適切に対応し、入院の場合は定期的に面会へ伺い、状況把握及び関わりを持つように心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントにてニーズを聞き取っており、また、日々の日常でも利用者との関わりで聴取している。	利用者がどのように暮らしたいか、一人ひとりの希望や意向は毎日の関わりの中から、生活歴を参考にしながら聞き出し、出来る限り意向に添った支援をするようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントや家族様との聞き取りにて、サービス内容に反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を把握し、記録の残すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のニーズと職員の気付き等をカンファレンスにて話し合う場を作っており、家族には面会時に希望等を聴取し、必要があればカンファレンスに参加して頂いている。	介護計画の期間は一応長期計画を6ヶ月短期を3ヶ月としているが、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、変化が起きた時にはそのつど臨機応変に介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々記録に残し、ケアプランの見直し等の活用を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員同士話し合いを行い、危険リスク等を想定して出来る限りニーズに添えられるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会とも協力し、地域との関わりを増やし交流を深めていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の意向を踏まえて医療サポートをさせて頂いている。入居前からのかかりつけ医からの医療サポートも支援させて頂いている。	利用者本人や家族等が希望するかかりつけ医になっている。協力医以外のかかりつけ医も往診をして頂いており、医療連携は十分に取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な状況報告と必要時の相談を行い、医療的なサポートをさせて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には定期的に面会に伺い、病院関係者とも情報交換ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の判断にて協力医療機関と相談及び指示のもと、家族様、職員にて具体的な今後のことの話し合いを行っている。	重度化した場合の終末期ケアの在り方について、事業所としての指針を定め、対応しうる最大の支援方法を本人や家族等と共有、同意書を交わし再確認しながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに準じて、様々なことに対して迅速かつ適切に対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施しており、また、運営推進会議等で近隣の方や地域の方との協力を呼び掛けている。	災害時における避難訓練や消防訓練を利用者と共に消防署指導のもと年2回行っている。しかし、災害に備えた備蓄備品は、今少し不足している。避難訓練に地域住民の参加がないし、夜間想定訓練も不十分である。	災害はいつ起きるか分からない。なかでも、夜間を想定した避難訓練は重要である。地域の方々に利用者の見守りをして頂く等、役割分担をお願いしながら訓練される事を期待する。防寒具等、備蓄備品の充実が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの尊厳を保ち、常日頃から声掛け一つに重要性を持つことを心がけている。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう、目立たずさりげない言葉掛けや介助が見られる。個人ファイルも事務所の書棚に施錠して保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションは日常的に行っており、その中で自己決定できるような環境づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせていけるような環境づくりや個々の希望に添える様に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問でこられる理美容や本人の要望を確認したうえで対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	生活歴を加味しつつ、セッティングや調理方法、配膳、食器類等を生活の一部として参加されている。職員も一緒に食事をするため、雰囲気づくりも取り組んでいる。	食材業者から搬入の食材を、職員、利用者が一緒になって厨房で調理、盛りつけや後かたづけをし、共に食事をしている。月に1~2度はお楽しみメニューの中から好きなものを選び、食事を楽しみなものにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や一日の水分量も記録に残しており、個人にあわせた食事の提供、栄養バランスを考慮し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人にあわせて口腔ケアの支援を行っている。また、週一回の訪問歯科にて指導や助言を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り、トイレでの援助を促しており、残存機能を活かした支援を行っている。	利用者の排泄パターンやサインを職員は把握して、あからさまな誘導ではなく、さりげなく誘導をし、一人ひとりに合った支援がされている。夜間は一時間毎に巡回して排泄介助をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりのパターンを把握し、その都度話し合いを行い、自然排便が行えるような様々な支援の方法を考え取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人おひとりのペースや希望に沿った入浴が行えるように取り組んでいる。	曜日は限定せず10時～15時の間沸かして、週に2, 3回を基本としていつでも入浴が出来る。入浴拒否の利用者には時間を変えて声掛けをしたり、別の職員が入浴を促すなど個々にそった支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムや生活習慣を支援し、個々のタイミングで休んで頂くことを援助している。また、不眠時には温かい飲み物の提供やお話相手になる等の対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの処方箋の説明書等は職員が把握しやすいようにファイルに綴じ、閲覧しやすいように取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の残存機能にあわせた余暇や役割等を考慮し、張り合いのある生活になるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ニーズや希望を考慮して、個別に対応出来る様に取り組んでいる。また、ボランティアや家族様も協力できることがあれば相談を行っている。	利用者一人ひとりのその日の希望に添って、事業所周辺を散歩したり、買い物に出掛けたりするほか、鶴見緑地公園へボランティアの協力を得ながら外出の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人おひとりの希望に応じて安心感を持って頂けるように支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の事情や能力に応じて家族様やご友人に交流を促している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	状況に応じて音楽やテレビの音量を配慮したり、季節感が映えるような取り組みを行っている。	ゆったりしたりリビングルームでは利用者がソファで、それぞれがテレビを見たり、仲間同士が話し合ったりしてくつろいでいる。壁には利用者の一寸した作品は飾られているが、けばけばしくない。極く普通の家庭の風景が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配慮やレイアウト等を状況に応じて変化を取り入れながら支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望やニーズに応じて使い慣れた家具や馴染みの物をご持参して頂くような取り組みを支援している。	それぞれの居室には、利用者の使い慣れた家具や家族の写真などが持ち込まれ、その人らしく居心地良く過ごせるための工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々にあわせた福祉用具を使用し、安全に配慮しながら自立した生活が送って頂けるよう取り組んでいる。		